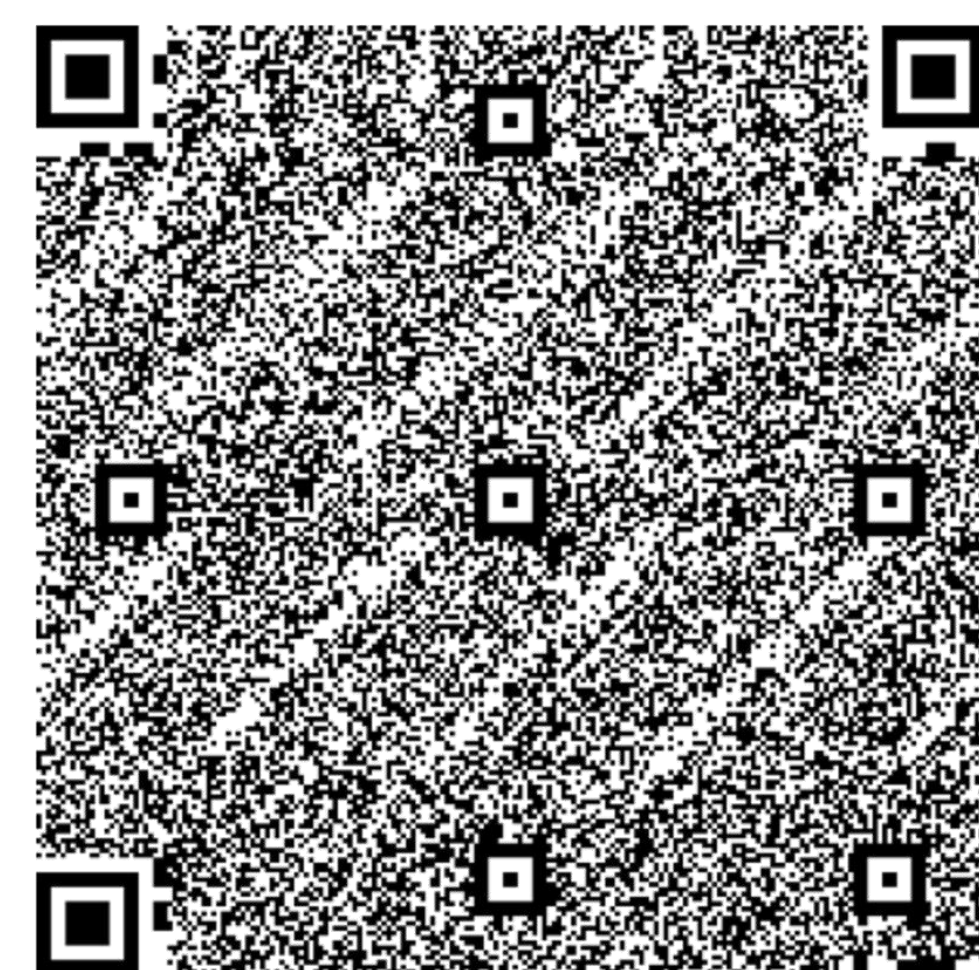


ハイブリッドコード®

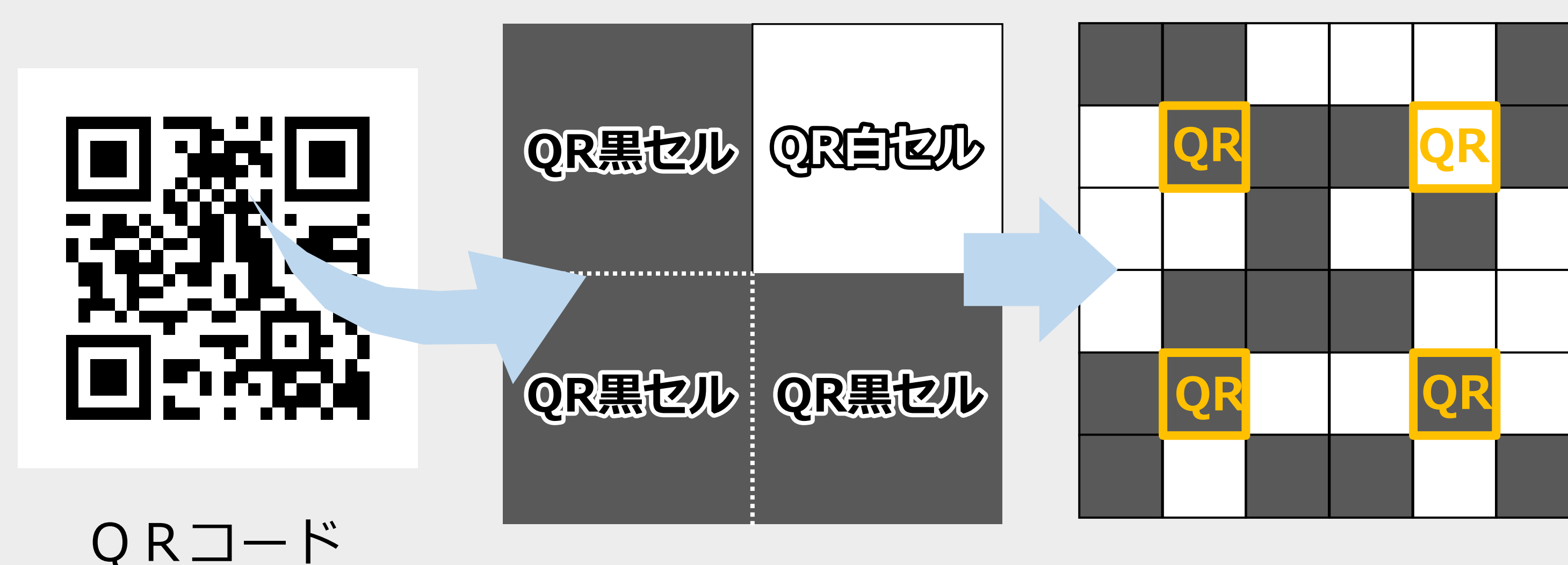
QRコードと互換性がありセキュリティの高い次世代大容量二次元コード



ハイブリッドコード®は、情報の大容量化とセキュリティを高度化した次世代の二次元コードです。大容量化によって顔写真や音声をコード内に格納できるため、顔認証による本人確認や金融決済、観光、エンターテインメントなど多方面での展開が期待できます。しかも、QRコードも含んでいるため、従来のQRコードシステムが継続使用できます。

ハイブリッドコード®とは？

ハイブリッドコード®のしくみ



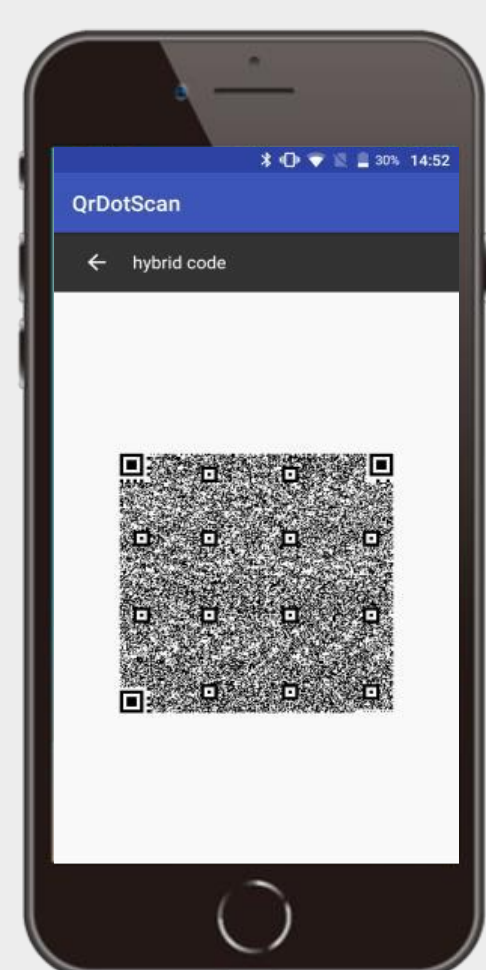
ハイブリッドコード®は、従来のQRコードの各セルを縦横に3分割し、中央にQRコードを、その周囲8セルに新たなコードを埋込み、情報量を従来の9倍超に増加させています。

従来のQRコードを使用したシステムを継続して使用することが可能で、QRコードのバージョン16の586Byte、漢字361文字の情報量に対して、同じバージョンのハイブリッドコード®では、5KB程度、本人確認可能な顔写真や1万文字程度の日本語が格納できます。

自撮り写真の符号化・復号



符号化

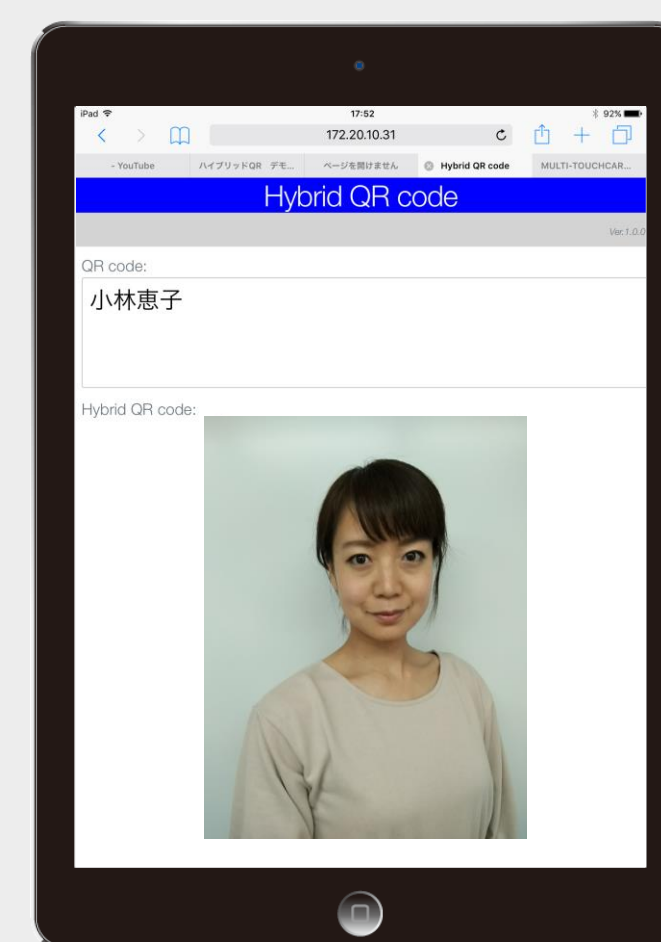


(a) スマホで自撮り写真を撮影。

(b) 自撮り写真が格納されたハイブリッドコード®が生成。



復号



(c) 専用リーダーで読取り、自撮り写真が復号され、iPadなど他のスマホやタブレットにWi-Fiで転送して写真を表示。

ハイブリッドコード®の用途

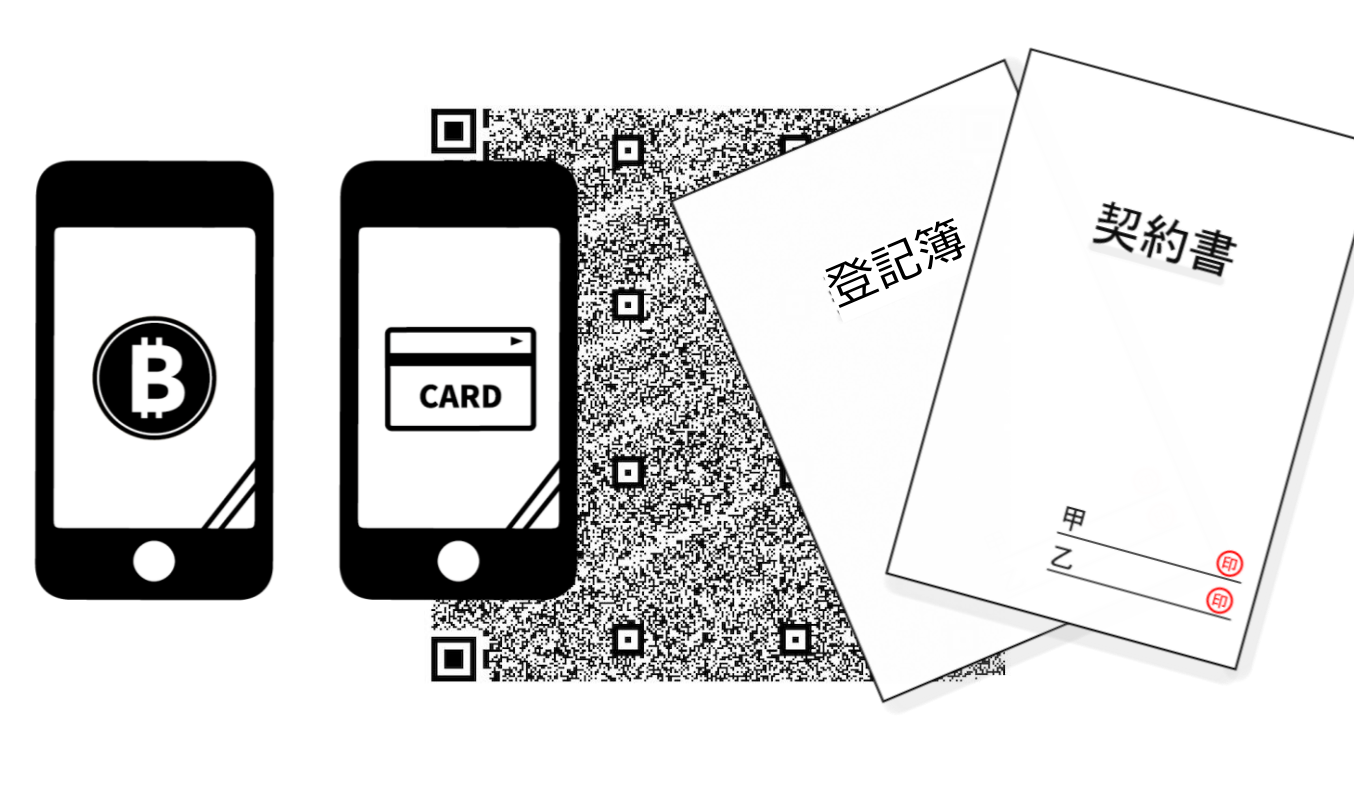
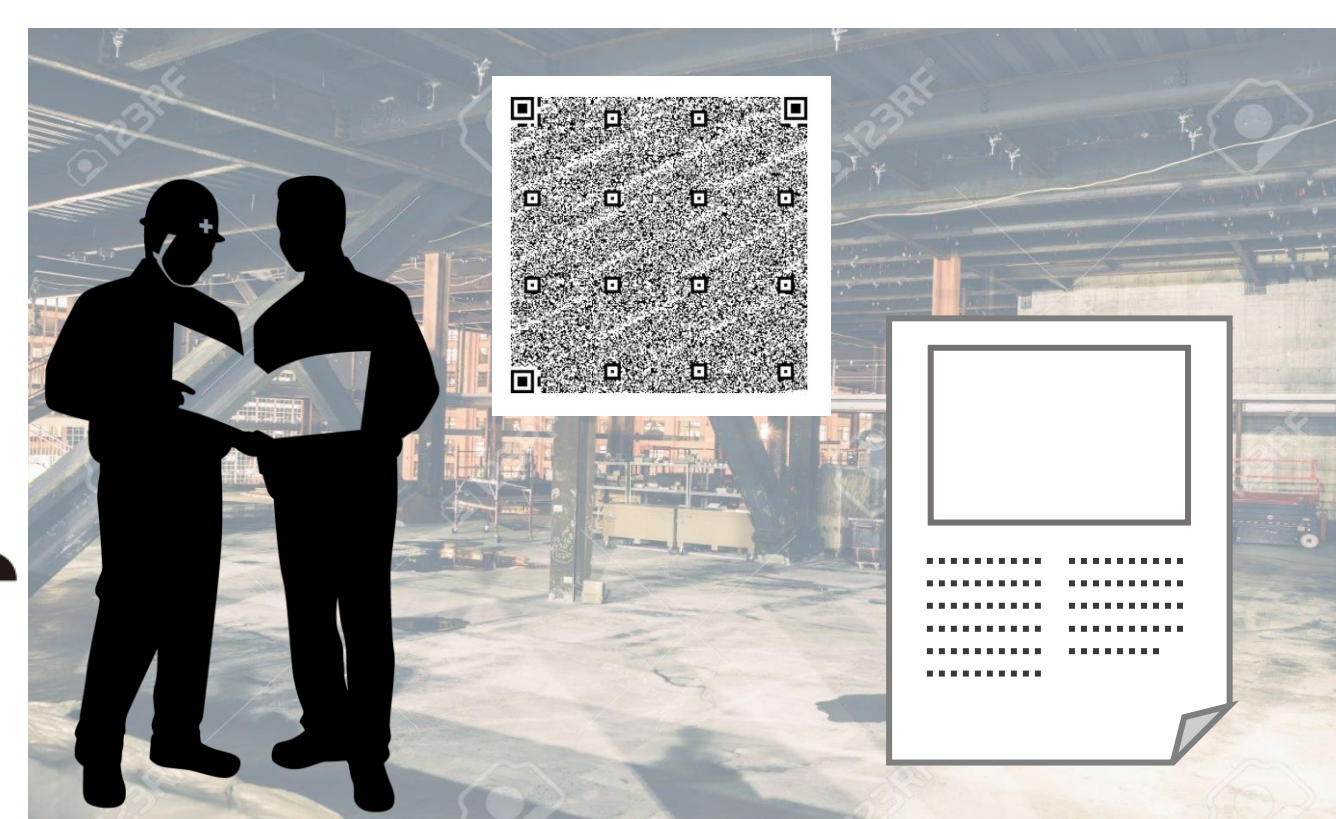
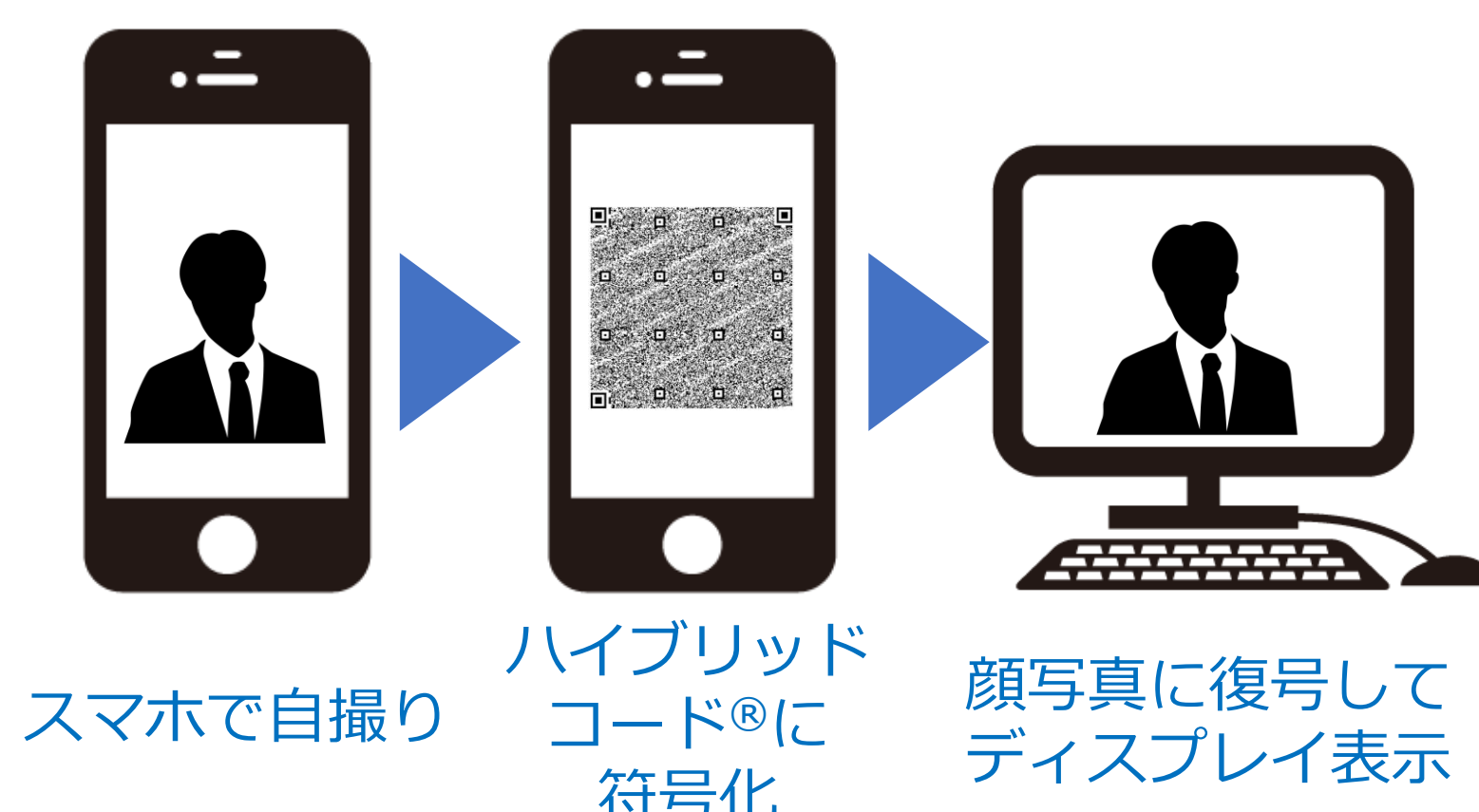
用途

本人確認

現場での情報共有

金融決済・公的書類

災害時の情報取得



場所

施設エントランス

通信不可の建設現場など

店舗・公的機関

電柱・災害タウンマップ

自撮りした顔写真をハイブリッドコード®に格納しておけば、様々な施設エントランスのリーダーで顔写真に復号することで、一度もサーバーに写真を送信することなく現地で顔認証が可能です。

膨大なテキスト情報を格納できるため、サーバーを使用する必要がなく、郊外や地下の建設現場などでの情報共有や進捗確認が可能です。さらに、情報漏洩の心配がありません。

ハイブリッドコード®の仕様は非公開のため、コードの偽造や偽装が困難で、キャッシュレス決済や登記簿、契約書といった重要書類のコード化に使用でき、安全で便利なIT化社会に貢献します。

サーバー運営が必要ないため、災害発生時などの通信インフラが使えない事態、場所でも避難マップなどボリュームの大きい情報にアクセスできます。